

もっと  
福井の魅力を  
知ってほしい  
から・・・



右：『からすのパンやさん』  
(かこさとし/え・ぶん、偕成社)  
左：『人間』(加古里子ぶん/  
え、福音館書店)

# ふくいのもっと 魅力探訪

ふくいのお宝ひとくちメモ

寄稿：福井県ふるさと文学館

## VOL.08 福井県出身の絵本作家・加古里子さんを偲ぶ

### 武生で過ごした幼少期

絵本作家で児童文化研究家の加古里子さんが、今年5月に92歳で亡くなりました。600以上の作品を遺した、戦後日本の児童文学を代表する作家です。

加古さんは1926年、国高村(現・越前市)に生まれました。ゆつたりと流れる日野川、村国山の穏やかな稜線、里山の風景が広がる武生のまち。トンボやメダカを追いかけたり、帰り道に草花を摘んだり、加古さんは武生の豊かな自然に親しみながら過ごしました。

わずか7才までの間でしたが、加古さんにとって武生はふるさとであり、「自分の原風景だ」と語っています。

### 戦争と人生の迷い

加古さんが小学2年生の6月、一家は東京へ引っ越します。飛行機乗りにあこがれた加古さんは、中学時代に航空士官を志したものの視力が足りないため受験できず、技術者を目指しま

す。

しかし軍人になった同級生たちは特攻で死に、自分は「死に残り」だという思いを強くします。また、戦争が終わると態度を一変させた大人たちへの不信感も募り、どのように生きるべきか悩みました。そして、「子どもたちには自分の頭で考え、自分の力で判断し行動できる賢さを持つてほしい。そのために自分の人生を捧げよう」と考えるようになりました。

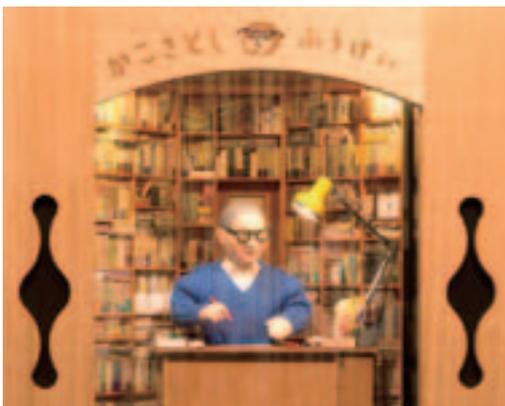
大学卒業後、化学会社に就職した加古さんは、川崎の子ども会活動に参加し、紙芝居づくりを始めます。これが加古さんの創作の原点となりました。

### 子どもたちのために描く

多くの加古作品のうち、特徴的なのが「物尽くし」です。代表作『だるまちゃん』とてんぐちゃん』や『からすのパンやさん』には、様々なモノが描かれています。世の中は多様であり、自分もそのどこかにいることを教えてくれます。また『宇宙』

や『人間』などの科学絵本では、子どもたちが未知のものに対して手掛かりをつかめるような図を苦心して描きました。世の中に関心を持ち、自分の好きなものを見つけ、考え、行動できるようになってほしい。加古作品には、そんな思いがあふれています。

福井県ふるさと文学館では、10月24日まで追悼展示として加古さんの絵本や複製原画を紹介しています。また、常設展示では加古さんの創作を紹介したからくり箱もお楽しみいただけます。ぜひ、お子さん、お孫さんも一緒にご覧ください。



ふるさと文学館常設展示  
からくり箱「かこさとしのふうけい」